

第3回 長生について。

皆さんは長い人生の中で何を最も大事にして生きていますか？

それはそれぞれの年齢にもよります。今置かれている学校や仕事での様子にもよると思います。

私が慶応大学で環境問題の講義をしていました。その頃はまだ温暖化ということが地球的な問題だと言う事はわかってはいたけれど、その影響があきらかでなかったために、あまり説得力のある話ではないと考えていました。このような時に環境は何のために教える必要があるのかについて考えてきて思いついたことがあります。それは、結局人間は長生きをするために生きているのではないかと言う単純なことです。

それで、当時の私の講義を受けていた学生 1000 人にアンケート調査のようなことをしました。長生きをしたいか、したくないか、それはどうしてですかと言う問いです。おおざっぱに言うと 7 割が長生きしたいと言うことでした。残りの 3 割の中には高齢化して体が動かなくなってまで長生きしたくないとの答えもありました。これは消極的に長生きをしたいと解釈すると 95%以上の学生が長生きをしたいとのことでした。

長生きをしたい理由を聞いたところ、やりたいことがあるからなどの優等生的な答えもあったんですけど、笑ってしまったのは孫の顔が見たいとの答えが結構ありました。まだ 20 歳前後の学生が孫の顔が見たいと言うのはびっくりでした。

それでは、長生きをするにはどうしたら良いかです。1 つは栄養のある食べ物を食べること、もう一つは十分な医療にかかれる事はすぐ思いつきます。少し考えていた時、ピータードラッカーがある書物の中で、昔の人は 50 年間体を酷使しながら労働をしてきたと言うことで、これだけ長い間体にダメージを与えるとそれより長く生きられなかったと書いてありました。なるほどと思いました。それで私は長生きの 3 条件は、食料、医療、過酷な労働からの解放だと考えました。

ただし、それだけでは充分ではありません。危険から逃れることも条件です。1 番大きな危険は戦争です。21 世紀には起こり得ないと思っていた戦争が今ウクライナで起こっています。ガザ地区の虐殺も大変です。戦争はなんとしても止めないといけません。その他の危険では、タバコの被害は大きいと言われてはいますが、それがわかっていながら、禁煙をしない人たちもかなりいます。そしてもう一つは事故に遭う危険です。さらに言えば環境問題があります。

ここからは車の話になります。1900 年以降、世界的に車が普及してきたことによって人が移動する事、あるいはものを運ぶとことについての過酷な労働から解放されました。しかし同時に環境とエネルギーと事故の問題が起きました。この危険を回避すると言うことがもう一つ大きな長生きのための要件だと考えています。

私はこのようなことを考えて1980年頃から電気自動車の研究を始め、1990年代には事故をなくすために自動運転と言うことも大事だと考えるようになりました。そして、これが私のライフワークになり、その結果として今モビリティ大学の学長をしています。

その思いの原点は、結局は長生きです。



外観



ボンネット内部

Aカー スバルレオーネの改造車

15

清水浩が初めて作った電気自動車

スバルレオーネの廃車を利用してモーターを左右の前輪に取り付け、電池はトラックの鉛電池を直列に繋いで走行した。

ガソリン自動車を自分で作れる人はいないが、電気自動車は簡単に作れることを実感した。